

## 死に打ち勝つ勝利

(ヨハネ11・17～27)

### 一、墓に葬られて四日

17節をご覧ください。イエスがおいでになると、ラザロは墓の中に入れて、すでに四日たっていた。とあります。元の聖書は「それからイエスが行き（あるいは、来て）、見た、彼が（ラザロが）墓に置かれて四日たっているの」となっています。まるで、イエスが先回りをして、ラザロが納められた墓を見てきたようにも受け取られる文章です。ですが30節に、イエスは「まだ村に入らず、マルタが出迎えた場所におられた。」とあるので、まだ墓に行っておられませんでした。

実は、福音書記者のヨハネは、イエスが、愛するラザロが（5節）墓に葬られてから四日たっていたことを見た、あるいは知った、というところから話を展開しているのです。四日とは、人が死んで生き返る望みが絶たれ、腐敗が始まって臭くなり始めた時です（39節）。すなわち、きょうだいのマルタとマリアにとっては、弟のラザロが息を吹き返すと期待できなくなった時間です。

### 二、主マルタの訴え

マルタ、マリア、ラザロの家は、資産家であったようです。18節、19節に「ベ

タニアはエルサレムに近く、十五スタディオンほど離れたところにあった。マルタとマリアのところには、兄弟のことで慰めようと、大勢のユダヤ人が来ていた。」とあるからです。ベタニアはエルサレムに近かったため、大勢のユダヤ人たちがエルサレムから吊問にきていました。おそらく一家が有力者だったのでありましょう。

さて、マルタが登場します。20節です。マルタは、イエスが来られたと聞いて、出迎えに行った。マリアは家で座っていた。とあります。マルタはイエスに訴えました。21節です。マルタは「イエスに言った。『主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょう。』と。マルタは何を訴えたかったのでしょうか。『先生は病気を治すことができになります。弟が死なないうちにきてくださっていたら、癒やされたことでありましょう。』と申し上げたかったのでしょうか。字面から追うなら、そうなるでしょうが、マルタの気持ちを受け止めようとするなら、ちがうと思います。『先生は弟のラザロを愛しておられたでしょ。なのに、どうして弟が臨終の時に一緒にいてくださらなかったのですか』という、うめきのことばだったのではないのでしょうか。ですがマルタは、イエスが特別な方であると知っていました。こうして、わらにもするようないで語

ったのが22節です。しかし、あなたが神にお求めになることは何でも、神があなたにお与えになることを、私は今でも知っています。』と。すると主イエスは、おそらくマルタが予想していなかったことを語られました。23節です。『イエスは彼女に言われた。『あなたの兄弟はよみがえります。』（ここから、神の子イエスによる、マルタを新しい次元に引き上げられることばが始まります。』

### 三、イエスをキリストと信じる

マルタは平均的なユダヤ人でした。すなわち、神が唯一なるお方であると信じていました。当時のユダヤ人は、サドカイ人以外は、終わりの日（主の日）に死者のよみがえりがあると信じていました。ですから、イエスが「あなたの兄弟はよみがえります」と語られた時に、答えました。24節です。『マルタはイエスに言った。『終わりの日のよみがえりの時に、私の兄弟がよみがえることばは知っています。』と。ですが、これでは信じたことになりません。キリストを信じるとは、イエス・キリストの内に宿る、神のいのちに生かされることです。主イエスは言われました。25節です。『イエスは彼女に言われた。『わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。』と。実は25節には、福音書記者に

よる仕掛けが隠されています。原文では、主イエスのことばは「わたしはある」から始まります。「わたしはある、よみがえり、そしていのち」となっています。

「わたしはある」とは何のことでしょうか。出エジプト記において、主なる神がモーセに、御自身が語られた名前です。「わたしは存在していた」「わたしは存在している」「わたしは存在し続けるであろう」という意味になります。ヨハネは、「わたしはよみがえりです。いのちです」に、イエスが神であることを、メッセージとして織り込んでいると言えます。

イエス・キリストを信じるとは、多くの信仰の一つとして、キリスト信仰にも心を聞くという意味ではありません。あるいはユダヤ人であるなら、メシア（油注がれた者）の一人として信じるだけなら、はなはだ不足です。創造主が遣わされた、ただひとりのメシアであり、創造主と罪人をつなぐただ一人の救い主であると信じなければ、キリスト信仰にはなりません。マルタは、主イエスのことばに応答しました。27節です。『彼女はイエスに言った。『はい、主よ。私は、あなたが世に來られる神の子キリストであると信じております。』と語りました。この時マルタはキリストを信じることに、神が要求されたレベルに達しました。